

草津宿本陣

資料調査だより 第一号

◆「草津宿本陣 歴史資料調査」

はじまる！

草津市教育委員会では、平成三〇年六月より、草津宿本陣に残されてきた歴史資料について、包括的・本格的な調査を開始しました。

調査期間中、この「草津宿本陣 資料調査だより」を通じて、最新の調査成果を皆様に広くお知らせして参ります。どうぞご期待ください。

※この調査は、「文化庁 地域活性化のための特色ある文化財（美術工芸品）調査・活用事業国庫補助金」の交付を受けて実施しています。

江戸時代、草津宿には二軒の本陣が置かれていました。このうち、江戸時代後期の建物が現存し、現在では国史跡に指定されているのが「田中七左衛門本陣」、いわゆる「草津宿本陣」です。

そもそも「本陣」とは、天皇の朝覲行幸（父母などの元に挨拶に行くこと）の際に行列の鳳輦を囲む一団の名称が由来だとされ、ここから軍の中核、総大将のいる本営を指すようになりました。武家の休泊所としては、貞治二年（一三六三）に足利義詮が自らの旅舎を本陣と称し、宿札を掲げたのが最初とされています。

江戸時代には、「本陣」といえば限られた身分の人々が利用する、道中の宿泊・休憩

◆調査の目的

「田中七左衛門本陣」を営んだ田中家には、江戸時代以来、数多くの歴史資料が保存されてきました。この中には古文書だけでなく関札^{*}や裱などの器物も含まれ、建造物と歴史資料が合わせて現存する充実した交通史関連資料として、全国的にも珍しい資料群であると評価されています。

このうち、大福帳や関札をはじめとする重要な資料については過去に調査・分析が行われており、江戸時代の本陣や宿場の運営を知る上で貴重な資料となっています。これに加え近年、

相次いで多数の資料が発見され、新たな調査を行う必要が出てきました。

また、すでに調査が行われた資料についても、今後の保存・活用のために改めて調査を行い、資料目録の作成などを行う必要があります。

よって今回の調査は、草津宿本陣に残されている歴史資料全体を対象とし、三年計画ですべての資料の目録を作成して、活用できるようにすることを目指しています。同時に、江戸時代から現在まで大切に守られてきた貴重な文化財を、将来にわたり保存していくことも目的としています。

調査成果は、調査終了後に報告書として刊行するほか、重要な資料はインターネットなどで公開して皆様に広くご覧いただく予定です。

草津の誇る貴重な文化財を守り、活

用していくため、ご理解とご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

◆調査の体制

本調査は、草津市教育委員会が行い、草津市立草津宿街道交流館の学芸員が中心となって作業を行います。

調査に当たっては、学識経験者による調査委員会を設置して指導を仰ぐとともに、調査資料の分析・検討を進めます。調査委員の先生方は以下の三名です。

- 東 幸代（滋賀県立大学 教授）
- 有坂 道子（京都橘大学 教授）
- 渡辺 和敏（愛知大学 名誉教授）
（敬称略）

*関札（せきふだ）

本陣や宿場の出入口等に掲げられた、木製・紙製の札。現在、旅館の前などに掲示される「〇〇御一行様」と同様の役割を持つ。草津宿本陣には、木製のものが約四六〇枚、紙製のものが約二九〇〇枚現存している。

次回以降は、調査の進捗状況のお知らせ、歴史資料の調査方法についてのコラムなどをお届けします。

平成三〇年六月
草津市立草津宿街道交流館 発行

この情報紙に関するお問い合わせは、
草津宿街道交流館までお寄せください。

電話 〇七七・五六七・〇〇三〇
FAX 〇七七・五六七・〇〇三一
ホームページでもご覧いただけます。
(<http://kusatsujuku.jp/>)

そもそも、「本陣」とは？

施設を指すようになります。利用できるのは大名や旗本、皇族や勅使（天皇の使者）、公家などで、参勤交代制度の整備などに伴い、ほぼすべての宿場に置かれました。

とはいえ公的に一律で整備された施設というわけではなく、各地の有力者が「本陣職」を拝命し、自分の屋敷に大名らを迎え入れる、というのが当初の形だったようです。その後、各本陣で休泊システムが整えられ、多くの人の旅を支えました。

このように重要な役割を果たした本陣ですが、明治以降、多くがその姿を消しました。現在まで当時の建造物が残されている例は全国的に見ても珍しく、草津宿本陣はほぼ完全な姿をとどめる貴重な事例です。



草津宿本陣 前景